

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/6/24作成 (株)新出光

【概況】<急激な金融引き締めによる景気後退>

●17日、ロシアのウクライナ侵攻による原油高やサプライチェーン(供給網)混乱の長期化などを背景にした世界的なインフレを受け、主要中銀は金融引き締め政策を進めています。米連邦準備制度理事会(FRB)は今週の連邦公開市場委員会(FOMC)で、0.75%の大幅利上げを決定しました。欧州でも英イングランド銀行、スイス中銀がすでに金融引き締め方向へかじを切ったのに加え、欧州中央銀行(ECB)も7月の利上げに踏み切る方針との事です。ただ、市場では、急激な金融引き締めにより景気が後退するとの懸念が台頭し相場は109.56ドルへ急落しました。

●20日、WTI相場は米国祝日の為休場です。ロシアのウクライナ侵攻が4ヶ月目に入中、米イエレン財務長官はロシアのエネルギー収入を制限する為ロシア産石油に価格上限を設ける案を同盟国と協議している事を公表。一方で、中国・インドは割安となったロシア産原油輸入を拡大しており、中国の5月ロシア産原油購入額は過去最高を記録しており、中国政府は依然としてロシア支持を表明していると思われまます。

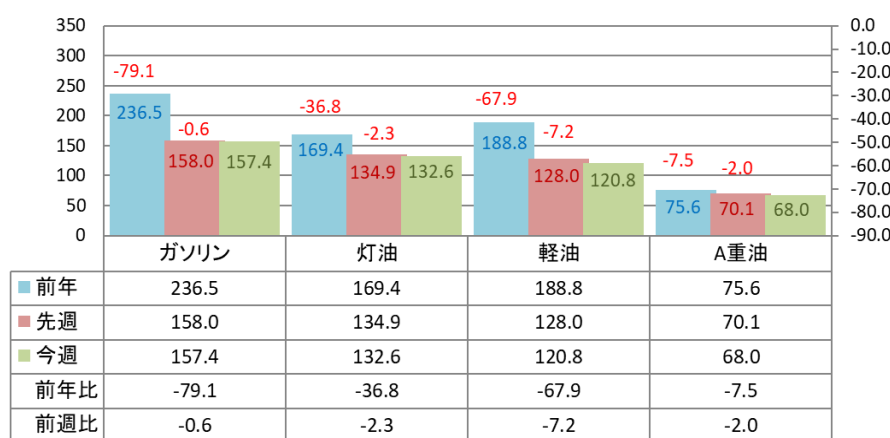
●21日、北半球の夏の到来を受けて、航空機用燃料やガソリンのドライブ需要が拡大するとの期待が台頭。バイデン米大統領が20日「ガソリン税の一時停止を検討している」と語ったとの報も買いを後押しをしました。米欧の主要中銀による利上げで景気後退懸念が浮上しているにもかかわらず、原油需要は堅調で、新型コロナウイルス禍から中国が回復し、経済活動が正常化すれば、エネルギー需要が拡大するとの連想も広がっている事から相場は110.65ドルへ反発しました。

●22日、米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長は22日、上院銀行委員会の証言で「インフレ低下に向けしっかり取り組む」と述べ利上げを継続する意向を改めて表明しました。急速なペースでの利上げに伴う景気後退(リセッション)の可能性が意識され、売りが加速し相場は106.19ドルへ下落しました。

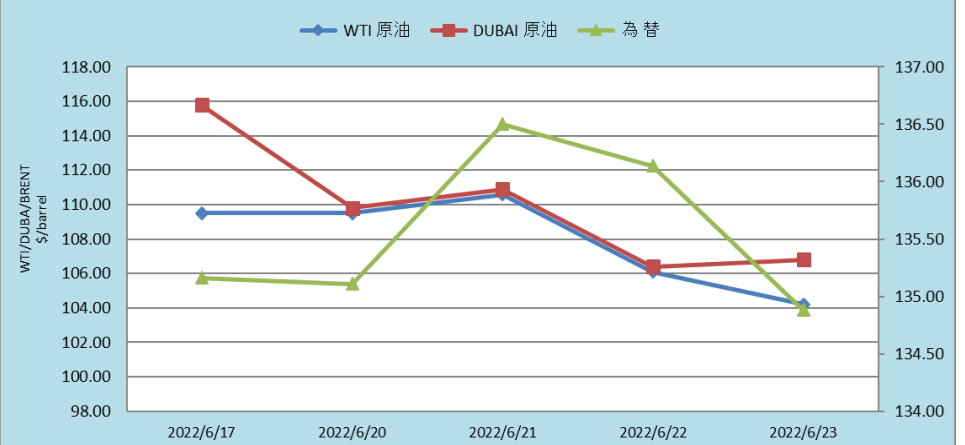
●23日、パウエル議長はこの日の下院金融サービス委員会で、インフレ抑制に向けた取り組みは「無条件」と発言。前日の上院銀行委員会での証言では急速な金融引き締めで米国が景気後退に陥る可能性があるとの認識を示しました。パウエル氏の発言を受けエネルギー需要が減速するとのリスク警戒感が台頭し下値では買い支えも入ったものの売り圧力が勝り相場は104.27ドルへ続落しました。

6月24日 17:00現在 WTI原油 104.21ドル 為替 1ドル 136.22円

国内石油製品在庫 6月18日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



	次回元売変動予測	
	6/30~	元売変動予測
ガソリン	→	-6.8~-7.3
灯油	→	-6.8~-7.3
軽油	→	-6.8~-7.3
A重油	→	-6.8~-7.3
LSA	→	-6.8~-7.3

※原油コスト「-5.5円~-6.0円」
 ※激変緩和補助金「-37.8円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】<市況連動玉・元売月間玉の販売攻勢強まり市況も下落>

《今週》今週の元売り仕切り改定は3社ともに原油コスト「-1.5円」、補助金「-40.5円」、都合「-0.6円」の値下げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの6日時点の小売価格平均は173.9円となっております。

今週のマーケットの主役は、市況連動玉や元売月間玉を持つ業者でした。月初から先高傾向が続いたため15日まで販売機会がなく玉を温存していましたが、16日以降一斉に売り始めました。

《6月25日以降》次回の元売り改定は、原油コスト「-5.5~-6.0円」の値下げ改定予測で、激変緩和補助金は「-37.8円」の見込みで、サウジ調整金-4.1円を含めると都合「-6.8~-7.3円値下げ」の改定の予測となっております。今週のマーケットの主役も、市況連動玉や元売月間玉を持つ業者です。先安が見えているため29日までに枠を消化したい販売業者が多く、日毎に市況は下がり続け元売週間玉では、対抗できない価格に下落しています。購入する側は、大幅値下げ後に仕入れたい思惑があるため、オーダーを先送りし28日29日の売買は閑散とする見込みです。30日以降の大幅値下げ改定以降にオーダーは集中するものと思われローリー繰りも混雑するものと思われまます。

【次世代エネルギー】<川崎重工、世界初「船用水素ボイラ」の基本設計を完了>

川崎重工業はクリーンなエネルギーである水素を燃料とする船用水素ボイラの基本設計を世界で初めて完了したと発表しました。本ボイラは、これまでの液化天然ガス(LNG)運搬船の建造で培った船用ボイラの技術やノウハウと、当社が保有する水素燃焼技術のシナジーを活用して開発。既に実用化されている小型の陸用水素ボイラとは異なり、波の揺動や設置スペースの制限が伴う船舶特有の条件や運用面などを考慮した設計となっています。本ボイラは、蒸気タービンプラントや燃料供給システムと組み合わせ、二元燃料推進システムとして大型液化水素運搬船に搭載される予定です。航海中に液化水素を積載した貨物タンクから、侵入熱により自然発生した水素ガスをボイラに供給し有効に推進燃料として活用します。本ボイラの技術は、陸上設備に設置するガス焚きボイラにも応用できるため、熱電ソリューションとして大型ボイラを必要としている国内外の石油・ガス・化学工業を始めとする各種プラント向けに陸用水素ボイラの開発を推進するとの事です。

【出典】 ① <https://www.e-logit.com/loginews/2022:053108.php>

水素エネルギー基礎知識 <https://minsaku.com/articles/post894/>

© 2022 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.